



幸せな贈り物

深い泉

ことばの香りで 祝福を味わう秋夕 (チュソク)

ことばが与える香り

イギリスのロンドン大学研究チームは1985～1988年に35～55歳の公務員7,524人にインタビューしたあと、昨年の4月までその人々の中でどれだけ多くの人が死んだのか調査をしたのですが、その結

果「生きるのが退屈だ」と答えた人が、そうではない人より37%もたくさん死んだことが現われました。退屈だと不平を言う人々は若い年齢で死ぬ可能性がもっと大きく、特に退屈さを感じる水準の高い人々は、生活に満足している人々より心臓疾患や脳卒中で死ぬ割合が2.5倍も高いと現われました。一方、オンライン広告専門企業のリアルクリックの調査によれば、秋夕(チュソク：韓国でのお盆にあたる時期)に一番聞きたくないことばは、既婚者は妻の家と本家の家族たちに対する陰口で、その次には経済能力をあげました。また、未婚の人は結婚についての話が一番で、就職と経済能力についてが秋夕の時に一番聞きたくない話であるという調査が出ました。研究によれば、人ははじめの3分間のことばで、心を開いたり閉じたりするということです。そして、一般的な対話で一人の話が一番聞きよい時間は45秒間だと言われています。アメリカの歴史の記念碑的テキストとして伝わっている「リンカーンのゲティスバーグの演説」は、総266単語に過ぎない2分間の短い演説だったのですが、今でも全世界に

影響を与える一番立派な話になっています。ですから、ことばをどのようにするのかによって「いのちの香り」になったり「死の香り」になったりするのです。人の心を動かすことばは、事実と真実が込められていると言われます。そして、人の人生を変えることばには、愛と信仰が込められていると言われます。

心を開く言葉-事実 「スリにあわないようにするには…」という文があります。

閑散としたバスの座席に座っていたら、ほっそり痩せた顔に傷あとがあって、なんとなく雰囲気イケナイ男が入って来た。「旦那さんに奥さんたち、騒がしくて申し訳ありません。私はスリの前科8犯の者です。他人の品物を盗んで、一生の半分を刑務所で送ったかわいそうな人間です。もう多くの旦那さんと奥さんの前で、これ以上スリをしないで善良な市民の一人として生きて行くことを約束いたしますが、多くの旦那さんと奥さんがスリにあわないために、普段どんな注意をしなければならないかについて、ちょっと申し上げます。第一に、奥さんたちが肩にかけているハンドバッグは、もう半分ほどはスリのもので、必ず片手で持って抱えなければなりません。お金や小切手を別の所に入れている財布も、大部分がハンドバッグを開けば、すぐ取り出して使いやすいように前に入れていらっしゃるのですが、それも危ないです。ちょっと不便だとしても、間の奥の深い所に入れておいてください。二つ目は、旦那さんたちがズボンの後ろポケットに財布を入れておくことは禁物です。その財布もほとんどスリのもので、上着の中のポケットに入れておいてください。そして、財布を入れたポケットには、必ず小銭三つを入れておいてください。洋服の中のポケット下側1センチの部分の横に切り裂くことはスリの基本技です。このとき、小銭三つが

先に落ちれば、このような音がするでしょう。チャリン、チャリン…」彼は手に持っていた小銭を落として、床にぶつかる鮮やかな金属性の音がバスの中に鳴った。彼の声には熱意があった。小銭を準備して来て見せてくれる誠実さが心に触れた。スリで一生を送った人らしい、専門技術と注意事項についての講義を終わって、最後に彼はこっそり本論を言った。「この品物に千ウォンだけの価値があると思う旦那さん、奥さんが一人ずつ買ってくだされば、私はこれから自分の手で稼いだお金でラーメンでも作って食べながら、もう罪を犯さないで生きて行こうと思います。旦那さん、奥さん、お騒がせして、重ねて申し訳ありません」深く腰を曲げてあいさつした彼は、売る品物を取り出した。前のほうの善良な顔つきの老紳士が五千ウォンを渡して一つ買うと、他の方々が次々と財布を開いた。スリの前科者のまじめな態度も良かったが、自分に必要な情報を得たと思ったのか、人々はお釣りをもらうつもりさえなかった。

心を動かす言葉-真実 あるとき、病院で健康診断を受ける中で、時間がかかる検査だったので、医師と話し合うことができる時間がありました。医師は、私が牧師ということが分かっていたから、イエス様に対する話はしてほしくないという雰囲気でした。「先生があえてイエスを信じないでも良い理由があります」予想外のことに、医師は「いや、イエスを信じないでも良い理由があるのですか」と言って、それは何なのかと問いました。「先生が三つの問題だけ解決することができたら、あえてイエス様を信じないでも良いです。先生は今まで生きて来て、深くさびしく思ったことはありませんでしたか」今も、さびしい時がよくあると言いました。「もし、永遠に私を愛して祝福なさる方がともにおられたら、さびしいでしょうか」「さびしくありませんか！」「その方が、すなわち聖書で語っている神様ですが、その方に会う道をご存じだったら、あえてイエス様を信じなくても良いです」少しの沈黙の時間が流れました。「二つ目は何ですか」沈黙を破って、その医師が問いました。「もしかして、先生は罪のため悩んだことはありませんか。私だけが知っている罪のため、その罪責感と報応のため悩んだことはないでしょうか」今も罪を犯して、悩んでいると言いました。「その罪と呪いから解放される道をご存じならば、あえてイエス様を信じなくても良いです。しかし、分からなかったら、イエス様は十字架で死んで復活することによって人間を罪と死の原理から解放したと約

束されました」もっと長い沈黙の時間が流れました。固い表情で、彼は最後の三つ目は何なのかと問いました。「今まで生きて来ながら、自分と家庭と家系、医師という仕事をしながら、理解することができないと感じたことはありませんか。言うことができない変な苦しみはなかったでしょうか」ところで、思いがけない返事が来ました。「悪霊がいるみたいです…」「悪霊の有無は問題ではありません。そこから出て来る道をご存じでしょうか。ご存じだったら、あえてイエス様を信じなくても良いのです」対話を終えて、その医師の先生はこのように告白しました。「イエス様を信じるしかないですね…」その方の人生を変えたことは、どんなことでもない事実が込められた真実の告白でした。

運命を変える信仰 私たちが熱心にまじめに生きること、正しく善良に生きること、お互いに信じて奉仕しながら生きること、夢に向けて挑戦して努力することなどは、人生を幸せに生きて行くためには常識であり基本で、普遍的なことですが、それで解決することができない人生の問題があることを私たちは知っています。神様を離れたあと、人間に訪れて来た運命の鎖、そして、その後に隠されているどうしようもない霊的な問題と暗やみの勢力(サタン)のしわざ、生きて行くほどやって来る理由も分からないむなしさと不安、科学的に理性的に理解することができない愚かな偶像崇拜の繰り返し、私一人で苦しんでいる精神的な苦痛、近づいてくる肉体の病気、自殺の誘惑と、待っている来世の刑罰、再び繰り返すしかない家系の霊的遺産…。これが事実なら、私の人生はこれ以上、希望はありません。しかし、聖書は簡単に終わらせる道を知らせています。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」(使徒の働き 16:31)信仰というのは事実を認めて、真実を握る時にくださる神様の贈り物です。神様が人間に与えられた最高の愛の単語「イエス・キリスト！」その愛が信仰で皆さんと家庭に伝えられる一番祝福された秋夕になることを願います。

あなたは幸せではなければならない
大切な人です。



聖書はなぜ 先祖供養を禁じて いるのでしょうか



秋夕（チュソク）と先祖供養の由来 〈祭祀と現代文化〉という本には、原始アフリカとインドネシア、古代中国で祭祀を執り行なったと記録しています。中国の宋の国するとき、儒教学者のチュヒが祭祀を理論的に裏付け、韓国では三国時代とき、特別な王にだけ祭祀を執り行ないました。この祭祀が高麗を経て、朝鮮に至って、多様な形態の祭祀文化として発展するようになったのですが、特に先祖供養を行なうことは、韓国や日本で作ったのではなく、中国から入って来たものです。周公という人が、家を遠く離れて学問に精進していたとき、ある日、急に父親が亡くなったという知らせを聞くようになりました。とても遠い道で、帰って会うことができず、親孝行を一回もまともにできなかったことを後悔しながら、食膳を作って故郷に向けてお辞儀をするようになりました。それを見て弟子たちがまねをし始めたのですが、すぐに中国全域に広がるようになりました。それが韓国や日本に入ってくるようになったのです。〈朝鮮王朝実録〉の記録を見れば、朝鮮時代の秋夕は「両親がいる人は酒の食卓で両親を喜ばせ、両親のいない人は墓所を尋ねて法事を執り行なう日」と言いました。すなわち、秋夕は親孝行する日だったのです。そのような祭祀文化が、ご利益宗教に変質して、供養をしないなら罰を受けるかと恐れる文化になってしまいました。



聖書はどうして先祖供養を禁じるのでしょうか それなら、聖書では、どうして先祖供養を行うことを禁じているのでしょうか。中国の祭祀は、すべての家が自分の家系の伝統を重要に思って誇るためにするのですが、私たちは供養をするときに先祖が神になって来ると思っています。はたして、供養は先祖の神にすることでしょうか。それが事実なら、聖書で先祖供養に反対することは、先祖に大きな間違いをすることになります。しかし、聖書はこの点をはっきりと明らかにしています。「いや、彼らのささげる物は、神にではなくて悪霊にささげられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。(1コリント 10:20) 親が死んだあと、神になって子孫たちに祝福と呪いを与えることができたなら、子どもが供養を少し間違っただって呪うことはないでしょう。それでも、供養を正しくしないという理由で、家に不祥事が起きる場合が多いのはなぜでしょうか。それは、悪霊が来るからです。悪霊は、どのようにしても人間をだまして滅ぼそうと考えています。先祖供養をするときに、来るのは神ではなく、神様に敵対するサタンの子分である悪霊です。彼らが先祖のふりをして人間をだますのです。偶像崇拜は、家に呪いをもたらして、代々滅びるようにすると警告されています(出エジプト 20:4~5)。それで先祖供養を禁じるのです。



神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様、私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。

しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れれます。

イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。キリストであると信じます。

いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。

今から私の生涯を細かく導いてください。

イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかさされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

楽しい 出会うの ために

たった今、生まれた赤ん坊は、大きく力強い泣き声で自分が世の中に現われたことを周辺に知らせる。そして、その赤ん坊は、たちどころに口をもぐもぐとさせる。食べ物をくださいという要求だ。人間の欲求の中で最大のことが多分、食べ物を捜すことだろう。いくら楽しい事が続いても、食べ物の抜けた宴はないからだ。盆や正月になれば、久しぶりに家族、親戚が交わって会って、ふんだんな食べ物を分けて嬉しい談笑を楽しむ。そのような姿は、ただ韓国にだけ限られたことではなく、人間の生活がある所では、どの国でも同じように起こる事だ。食堂は、まず空腹を解決するという単純な一次的要求をよく満たさなければならない。しかし、センスある食堂は、義務的に食べ物だけを提供するのではなく、その時間を楽しいことに変える知恵を活用している。アメリカのサンフランシスコに住む日本人の萩原眞がフォーチュンクッキー (Fortune Cookie) を作ったが、それはお菓子の中にたのしいメッセージや占い、イベント文具などを入れたのだ。アメリカの中国食堂でよく見られるこのお菓子のメッセージは、食べ物を待っているときや、支払いの計算をしているときにもらうようになるが、お菓子を味わうより、お菓子の中に入っている楽しい文章に関心を持ったりする。たとえば「あなたが幸せになる四つ葉のクローバーを見つけるために、幸せの三つ葉のクローバーを踏まないでください」「あなたが失ったことに未練を持つのではなく、残っていることの大事さをよく見てください」などだ。単純な格言に過ぎないが、見る人にいろいろなことを考えさせ、付き合いの楽しさを分かち合うようにさせる。



出会うの楽しみの中で一方は楽しいが、一方ではする事が多くて苦しむ人々の恨みと不平が出やすい期間だ。お互いに気配りして譲歩する知恵を得ることができたら私たちの人生は、かなり楽しいものになるだろう。ときには、放っておいて積んで

る人生ドラマを解いて、自分の傷だけ見てくれという要求が先立って、ややもすると不本意な論争と争いになり、楽しい食事を台無しにするようになる事も頻繁に起きるので、商術にすぐれた中国食堂のフォーチュンクッキーのように、私たち出会うのまわりにも福音がまかれれば、出会うは楽しみになって、食事は愉快的な席になるだろう。

「人間の幸せは、空席を満たすことだから、ご飯やお酒ではなく、イエス様で満たしてください」「道に迷ったら道である預言者に会って、犯した罪が負担になったらあなたのすべての罪を負って十字架にかかれた祭司に会って、運命が悩みになったら運命を打ち破った王に会ってください。その方は人生のすべての問題の解決者キリストです」「あなたが私に会ったあと私を忘れたら、あなたは何も失うことはありません。しかし、あなたがキリストに会ったあとに、その方を忘れたら、あなたはすべてのものを失うようになります」

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ